

シンガポール繁栄と緊張（583号）

2024年 11月 石館

小生の商社マン生活は40歳前半までは主にヨーロッパ、中東であった。入社3年目にドイツに駐在3年間滞在后、日本に帰国、その後国内商いをやっていたが入社10年目に再びドイツ駐在になり、約7年間滞在した。そのころ社運をかけてエジプトの製鉄所案件を日本鋼管、神戸製鋼と共に始めており、何故か小生がトーマンを代表してエジプトの製鉄所案件に行くことになった。

結局エジプトには約3年滞在し、ドイツ・エジプトと通算10年弱の海外生活となった。帰国したのは44歳の時で、その後もエジプト案件を継続して日本側からサポートしたが、徐々に経営資源を米国や東南アジアの電力事業にシフトして行った。それまで米国や東南アジアにはほとんど縁が無かったが、最初に東南アジアに入ったのはシンガポールであった。



トーマンは既にその時はフィリッピンやタイで電力事業を始めていたので小生は東南アジアでの電力事業の生みの親というわけではない。

シンガポールと言えば、陸軍軍人山下奉文が第25軍司令官としてマレー攻略を指揮し、短期間のうちにシンガポールを陥落させて、一躍、国民的英雄になったこと、またイギリス軍司令官パーシバルに“イエスカ、ノーか”と無条件降伏を迫ったことくらいしか知らない。

その後シンガポールではホープウェルと電力事業で組んだり、造船会社のケッペルにブラジルの深海石油掘削設備を発注したりした。



シンガポールの象徴ともいえるマーライオン

シンガポール共和国の歴史はシンガポールがマレーシアを追放され、共和国として独立した1965年8月9日に遡る。分離独立後シンガポールは自給

自足の道を進むことになり、失業率の高さ、住宅や土地、石油をはじめとする天然資源の不足など多くの問題に直面した。

リークワンユーが首相を務めた1959年から1990年にかけては、失業者の抑制、生活水準の向上、大規模な公営住宅計画がすすめられた。その結果、経済インフラの整備、人種間の緊張緩和、防衛システムの構築に成功した。貧困国家であったシンガポールは、20世紀末には先進国の地位を確立したと言える。

1990年には、リーの後継としてゴーチョクトンが首相に就任した。彼は在任中、アジア通貨危機の経済的影響、SARSの流行、アメリカの同時多発テロやバリ島爆発テロを受けたジュマ・イスラミアとの対テロ戦争など、様々な問題に対処した。2004年にはリークワンユーの長男であるリーシャロンが第3代首相に就任した。



リー＝クワンユー

シンガポール独立の父と言われるリークワンユー

華僑の家系に生まれ、戦後イギリスに留学、帰国後、人民行動党を率いて1963年、マレーシア独立時に1州として加わる。1965年中国系住民の多いシンガポールをマレーシアから分離独立させ、以後首相として長く政権の座にあり経済成長を実現、1990年まで在任した。

ここでシンガポールの歴史を長々と述べるのは割愛するが、シンガポールは継続的に力強い経済成長により、世界でもっとも繁栄している国の一つとなり、国際貿易も盛んになった。シンガポール港は世界で最も忙しい港の一つで、1人当たりの GDP は西ヨーロッパの主要国を上回っている。



先方に見えるのはマリナベイ・サンズで屋上にあるプールが珍しい。

シンガポールの金融通貨庁(MAS)はファミリーオフィスと呼ばれる資産管理会社を通じて同国に資産を預けようとする富裕層に対し、審査を強化している。

MAS が審査を強化するのは、シンガポールに一定額を投資すると税優遇が受けられるファミリーオフィスへの需要が富裕層の間で増え、金融犯罪への懸念も高まったためだ。申請者やその近親者、関係者が資金洗浄、テロ資金供与、その他の犯罪にかかわっていないかを調べるため、外部の協力を得る必要が生じた。

米コンサルタント会社マッキンゼーによると、中国からシンガポールへの個人金融資産の移転は23年末時点で合計4000億ドル(約59兆円)に上る。シンガポールは23年時点でインドネシアから1400億ドル、インドから1300億ドル、香港から700億ドル、他のアジア諸国から3700億ドルの資金を獲得した。

香港は23年末時点で中国本土から5550億ドル、その他のアジア諸国から7億3500万ドルの資金を獲得した。全世界のシングルファミリーオフィスの約15%が2都市に拠点を置いている。

シンガポールは中国人の資産移転を歓迎することに加え、中国人の旅行客への制限も緩和した。シンガポールと中国は2月、両国民がビザなしで最大30日間、互いの国に滞在できるようにした。このことが実は犯罪増加への懸念を引き起こしている。国際犯罪組織と関係があるとみられる中国人らが8月、シンガポー

ルの邸宅に押し入り400万ポンド弱を盗み、3人が逮捕された。シンガポール当局は国民を安心させなければならない。また一方では海外の富裕層の資産は引き寄せたい。

シンガポールの厳格な規制と適切な安全策がビジネスにやさしい環境をもたらす。シンガポールは今後も世界中から合法的な財産、本物の投資、補完的な国際人材を歓迎するとし、今後も国際金融センターとしてシンガポールの地位は確固としたものになるろう。



シンガポール随一の高級ホテルラッフェルズホテル

2階にあるロングバーに最初行ったときピーナッツの殻が床に散らばっているのが驚いたが、そのような習慣があることを初めて知った。

ラッフェルズシンガポール（シンガポール）：（最新料金：2024年） 清潔で食時もおいしくシンガポールにはぜひまた行ってみたいものであるが、もう実現しないかも知れない。